

おはなし会へのとびら

～初心者のためのブックリスト～



平成 21・22・23 年度

「子どもと読書」研修会 研究講座 編
(平成 23 年度「子どもと読書」研修会報告書)

ま え が き

平成12年の子ども読書年を機に、子どもを取り巻く読書環境の整備が国を挙げて進められています。福岡県でも、平成16年2月に策定された「福岡県子ども読書推進計画」が、平成22年3月に改訂され、子どもを取り巻く読書環境のさらなる充実が期待されます。

これに伴い、今後図書館の果たす役割は、これまで以上に大きくなり、図書館職員の専門性、資質向上がより強く求められることとなります。

当館では、子どもの読書活動の充実をめざし、昭和53年度から、市町村の図書館職員、子どもの読書に関わる方々を対象に「子どもと読書」研究会を実施してまいりました。平成16年度からは、この講座が県内の児童サービスの研修の場として定着している点を重視して、「子どもと読書」研修会と名称を改め、研修内容も体系化し、更なる充実を図りながら実施しているところです。本年度は、児童図書館入門講座、中級講座、研究講座と、三つの講座を実施し、共通講座として講演会を行いました。

平成21年度から3年間、この研究講座において、おはなし会で使うためのブックリストの作成を課題としました。時間や回数の制約の中での作成となりましたが、このリストが、子どもと本をつなぐ一助となれば幸いです。

なお、このリストを作成するにあたり、各出版社他関係各位に多大な御協力を賜りましたことを、末尾ではございますが、厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

福岡県立図書館長 津上 正幸

こ の 本 の 使 い 方

このリストは、初めておはなし会をする人向けに、おはなし会のプログラムを考える時のお手伝いになることを目指して、読み聞かせにむく絵本、ストーリーテリング（おはなし）のテキスト、おはなし会をするための参考図書などを選んだものです。

初心者の方でも選びやすいように、読みやすい絵本、語りやすいおはなしを選びました。

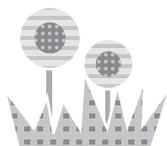
特に絵本は、遠目がきき、基本的には見開きに一場面ずつ描かれている、絵と言葉の割合のあった、読み手を選ばないと思われるものを選びました。このリストに載っている本は、ほんの一部です。このリストをきっかけに、次はあなたのお勧めの本が見つかることを願っています。

お は な し 会 に つ い て

おはなし会は一期一会です。

その日の子どもの状況によって、反応は毎回異なります。笑わないからおもしろくないかということ、そうでもありません。無表情に見えても、心の深いところできっと何かを感じているでしょう。それを信じて読み続けていきましょう。

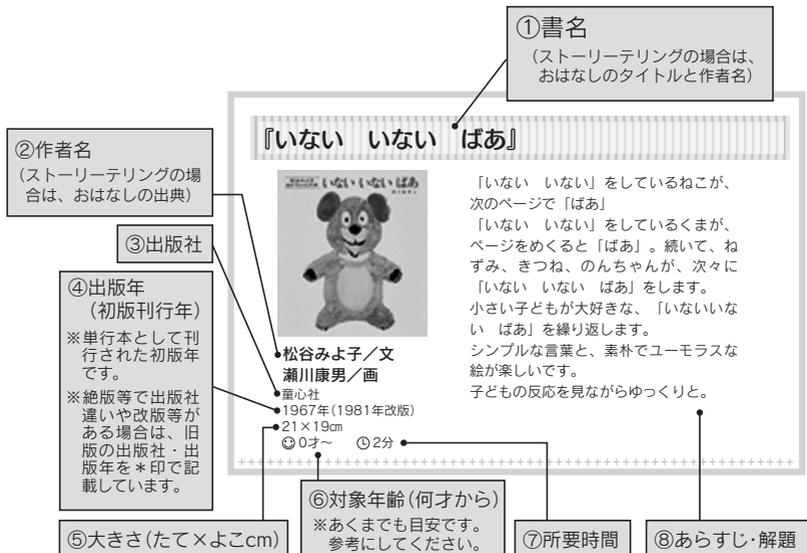
私たちにできることは、ただ誠実に子どもたちに本を届けることだけです。どうか読み聞かせの時間を楽しんでください。



凡 例

《リストの内容について》

リストには以下の項目を掲載しています。



《リストの範囲について》

基本的に、2011年9月末までに出版されたものから選んでいます。

《★印について》

2011年12月現在、品切れ・絶版等のため書店等で購入できないものには、書名のあとに★印をつけています。お近くの図書館等でお尋ねください。

目次

1	読み聞かせに向く絵本	5
	あかちゃんから	5
	コラム 歌があったらどうするの?	11
	ちいさい子から	12
	コラム 途中で向きが変わる本~タテになったりヨコになったり	27
	小学生から	27
	コラム 大きな本! でも楽しんでほしい!	34
2	ストーリーテリングに向くおはなし	35
3	わらべうたの本	42
4	おはなし会をするために	43
	まずはここから	43
	ストーリーテリングについて	44
	ステップアップ!	45
	コラム 『クシュラの奇跡』	45
	索引 書名索引	46
	編集委員	50

1

読み聞かせに向く絵本
あかちゃんから

『いないいないばあ』



松谷みよ子／文
瀬川康男／画

童心社
1967年（1981年改版）
21×19cm
😊 0才～ 🕒 2分

「いないいない」をしているねこが、次のページで「ばあ」。

「いないいない」をしているくまが、ページをめくると「ばあ」。続いて、ねずみ、きつね、のんちゃんが、次々に「いないいないばあ」をします。

小さい子どもが大好きな、「いないいないばあ」を繰り返します。

シンプルな言葉と、素朴でユーモラスな絵が楽しいです。

子どもの反応を見ながらゆつくりと。

『がたん ごとん がたん ごとん』



安西水丸／さく

福音館書店
1987年
18×19cm
😊 0才～ 🕒 2分

がたん ごとん がたん ごとん、汽車が走っていくと、ほ乳びんが「のせてくださいー」と頼みます。

ほ乳びんを のせて 走っていくと、こんどは カップとスプーンが「のせてくださいー」。

さらに、りんごとバナナ、ねことねずみが「のせてくださいー」。

みんなを のせて、汽車は食卓まで走ります。

繰り返しを楽しんでリズムカルに。



『まて まて まて』



こばやしえみこ／案
ましませつこ／絵

こぐま社
2005年
20×21cm
☺ 0才～ ⌚ 2分

赤ちゃんが嬉しそうにハイハイをしている後から、「まて まて まて」と、うさぎやあひるなど、たくさんの動物のぬいぐるみ達が追いかけていきます。

最後に、お母さんがみんなをぎゅっと抱きしめて、一緒にねんねします。

この絵本は、わらべうた「まて まて あまて」を題材にしています。

楽しく追いかけてっこをしているような気持ちで読んでください。

『でてこい でてこい』



はやしあきこ／さく

福音館書店
1998年
20×20cm
☺ 0才～ ⌚ 1分半

ページを開くと緑の葉っぱ。

「だれか かくれてるよ でてこい でてこい」

ページをめくると葉っぱからカエルが飛び出します。

次の五角形からはウサギ。

ページをめくると、いろいろな色の形から、へびや、あひるや、ぞうや、ありなどの動物が出てきます。

ゆっくり楽しみながら読んでください。

『もう おきるかな?』



まつのまさこ／ぶん
やぶうちまさゆき／え

福音館書店

1998年

20×20cm

☺ 0才～ ☹ 1分半

見開きいっぱい、ねこの親子が寝ています。「ねこ ねこ よくねているね。」「もう おきるかな?」

ページをめくると、見開きいっぱい伸びをするねこの親子がいます。

「あー、おきた!」

次に、いぬの親子が寝ています。「いぬ いぬ よくねているね。」「もう おきるかな?」ページをめくると「あー、おきた!」

りす、くま、ぞうの親子と、繰り返して続していきます。

『ちびすけ どっこい』



こばやしえみこ／案
ましませつこ／絵

こぐま社

2006年

20×21cm

☺ 1才～ ☹ 2分半

「ちびすけどっこい」のわらべ歌に合わせて動物たちが、すもうをとります。最後はくまと男の子が勝負をして男の子が優勝します。

この歌には、メロディーはありません。リズムを取って読んであげてください。

文章は繰り返して、絵もはっきりとして見やすい絵本です。大人と一緒に聞いている場合は、リズムに合わせて子どもの体を揺らしてあげると喜びます。

読んだ後で、わらべうたあそびに発展しても良いでしょう。



『おつきさまこんばんは』



林明子／さく

福音館書店

1986年

18×19cm

☺ 1才～ ☹ 1分半

夜です。ねこが屋根に上っています。屋根の上が明るくなってきました。おつきさまです。

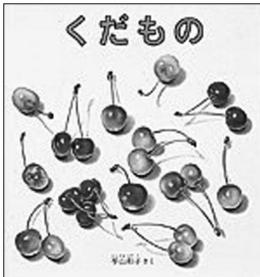
「おつきさま こんばんは」

ところが、雲がやってきて、おつきさまの顔がみえなくなりました。でも、おつきさまは、またお顔をだしてくれました。

「あーよかった おつきさまが わらってる まんまる おつきさま こんばんは こんばんは」

裏表紙にはあかんべえをした、おつきさまが描かれています。

『くだもの』



平山和子／作

福音館書店

1981年

22×21cm

☺ 1才～ ☹ 2分

はじめに丸ごと大きな「すいか」

次のページに「さあ どうぞ。」と、今にも食べたくなるようなすいかがお皿にのせて描かれています。

もも、ぶどう、なしと、次々に描かれる11種類のくだものがみずみずしくて美味しそうです。

「さあ どうぞ。」と読むと、みんな自然にぱくぱく一緒に食べる真似をしてくれます。読み終わったころには、おなかいっぱい。

『きゅっきゅっきゅっ』



林明子／さく

福音館書店

1986年

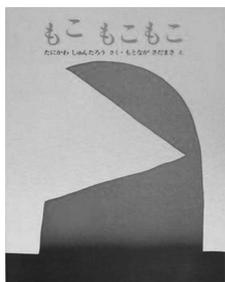
18×19cm

☺ 0才～ ⌚ 3分

赤ちゃん、ねずみさん、うさぎさん、くまさん、みんな並んでおいしいスープをいただきます。すると、ねずみさんがスープをおなかにこぼしてしまいました。でも大丈夫。ふいてあげるね、きゅっきゅっきゅっ。赤ちゃんがみんなのこぼしたスープをふいてあげます。

「ふいてあげるね きゅっきゅっきゅっ」の言葉の繰り返しがりズミカルで心地よい絵本です。

『もこ もこもこ』



谷川俊太郎／作
元永定正／絵

文研出版

1977年

29×23cm

☺ 2才～ ⌚ 3分

「しーん」とした平面から、「もこ」と一部が盛り上がります。それはさらに大きくなり、小さなものも生えてきます。

「もこもこ」、「によきによき」と、見る間に大きくなって、「ぱちん!」とはじけます。そして「ふんわ ふんわ」と散らばって行き、「しーん」とした平面から、また「もこ」とあらわれるのです。

すべて擬音語で書かれた絵本です。子どもの反応を見ながら、一緒に楽しんで読みましょう。



『たまごのあかちゃん』



かんざわとしこ／ぶん
やぎゆうげんいちろう／え

福音館書店

1993年

22×21cm

☺ 2才～ ☺ 3分半

いろいろな大きさ、いろいろな形のたまごがあります。

「たまごのなかでかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？ でておいでよ」すると、なかから出てきたのは、にわたりのあかちゃんでした。

「ぴっぴっぴっ こんにちは にわたりのあかちゃんこんにちは」

ほかにも、かめやへび、ぺんぎんやきょうりゅうが出てきます。子どもと一緒に楽しんで読んでください。

『のせて のせて』



松谷みよ子／文
東光寺啓／絵

童心社

1969年

21×19cm

☺ 2才～ ☺ 2分半

まこちゃんが、自動車に乗って走っていくと、うさぎが「のせてのせて」と手をあげています。うさぎを乗せたまこちゃんの自動車は、くまやねずみの親子に会い、みんなで一緒にドライブします。

走っていくと、真っ暗なトンネルに入りますが、最後に明るいおひさまが出てきます。

真っ暗なトンネルの場面では、少し声の調子を落として読むと雰囲気ができるでしょう。

『パンツのはきかた』



岸田今日子／さく
佐野洋子／え

福音館書店

2011年

22×21cm

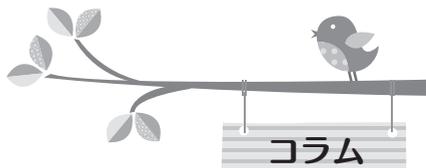
🕒 2才～ 🕒 2分半

パンツに片方ずつ足を入れたら立ち上がって引き上げます。

パンツのはきかたが、ブタさんの実演つきでひとつずつ描かれています。単純なことです、小さい子にはとても身近なことなので真剣に見入ります。

巻末には楽譜もついています、歌わなくても十分伝わります。短い話なので、ゆっくりと、絵をしっかりと見せながら読むと良いでしょう。

歌があったら どうするの？



わらべうたが絵本になったものがあります。たとえば、

『ととけっこう よがあげた』

(こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社 2005年)

「ととけっこう よがあげた まめでっぼう おきてきな」という部分を、絵本に紹介されている楽譜の通りに歌ってみましょう。「まめでっぼう」が「こねこちゃん」や「こぶたくん」に変わっていきませんが、全て同じように歌います。

また、絵本の中には、歌が出てくるけれども、楽譜がない絵本もあります。この場合、歌わずにそのままリズムカルに読んだり、歌のように節をつけて読んだり、読みやすいように読んでください。ただし、節をつける場合には、読むたびに違う節で読むようなことはせず、毎回同じ節で読みましょう。

ちいさい子から

『おおきなかぶ』

ロシア民話



A・トルストイ／再話
内田莉莎子／訳
佐藤忠良／画

福音館書店

1966年

20×27cm

Ⓢ 3才～ Ⓜ 4分

おじいさんが植えたかぶ。とても大きくて、おじいさんひとりでは抜けません。そこでおばあさんをお呼びですが、それでも抜けません。次にまごむすめ、いぬ、ねこ、ねずみと呼び、「うんとこしょ どっこいしょ」と、みんなでひっぱって、やっとかぶはぬけました。

子どもたちは、登場人物が増えるたび、場面のくり返しや掛け声を一緒に覚えて楽しめます。

最後に裏表紙をみせるときは、本を開いておともと一緒に見せると、かぶの大きさがより伝わります。

『ぞうくんのさんぽ』



なかのひろたか／作・絵
なかのまさたか／レタリング

福音館書店

1977年

27×20cm

Ⓢ 3才～ Ⓜ 2分半

天気の良い日、ぞうくんはごきげん。ぞうくんが散歩に出かけると、かばくんに出会います。ぞうくんは散歩にさそいます。

「せなかにのせてくれるなら いってもいいよ」

「いいともいいとも」

かばくん、わにくんと、次々出会う友だちを背中に乗せるぞうくんは、頼もしい力持ちですが、小さなかめくんとを背中に乗せて歩き出したところが、

「うわーっ」「どっぼーん」と、池の中に落っこちてしまいます。

『ちびゴリラのちびちび』



ルース・ボーンスタイン/作
岩田みみ/訳

ほるぷ出版
1978年
22×26cm
ⓐ 3才～ ⓑ 4分

森のなかに、ちいさなかわいいゴリラがいました。名前はちびちび。森のみんなは、ちびちびが大好きでした。ちびちびはみんなに見守られて、元気にすくすく育っていきます。

ある日、ちびちびがどんどんどんどん大きくなり始めました。

ちびちびの誕生日。みんながお祝いにやってきます。だって大きくなっても、みんなちびちびが大好きでしたから。

「こんなにおおきくなりました！」という場面では少し間をおいてページをめくると、より効果的です。

『てぶくろ』 ウクライナ民話



エウゲーニー・M・ラチョフ/絵
うちだりさこ/訳

福音館書店
1965年
28×23cm
ⓐ 3才～ ⓑ 6分

森でおじいさんが、てぶくろを片方落としてしまった。そこへねずみがやってきて、「ここでくらすことにするわ」と言いました。ねずみだけではありません。森の動物が次々にやってきて、中に入ろうとします。

「だれ、てぶくろにすんでいるのは？」と問いかけると、返事がどんどん増えていきます。“くいしんぼねずみ”から“のっそりぐま”まで7匹もの動物がてぶくろの中に入ります。おじいさんがてぶくろを探しに戻ると、みんな逃げ出してしまうのでした。



『かばくん』



岸田衿子／さく
中谷千代子／え

福音館書店
1966年
20×27cm
☺ 3才～ ☹ 5分

動物園の朝11時、かばくんはまだ眠っています。ようやく起きたかばくんは、かめくんとあいさつをします。今日は日曜日です。子どもたちが、かばくんを見に集まってきました。

かばくんは、キャベツをひとつちで食べてしまいます。お腹一杯になりました。やがて動物園に夜が来て、かばくんたちは眠ります。

最後に裏表紙をみせるときに、本を広げて表の表紙も一緒に見せると、かばくんの大きさがより伝わります。

『わたしのワンピース』



西巻茅子／絵・文

こぐま社
1969年
20×21cm
☺ 3才～ ☹ 4分半

空からまっ白な布が落ちてきました。うさぎはワンピースを作りました。そのワンピースを着てお花畑にお散歩に行くと、ワンピースが花模様になりました。うさぎは「ラララン ロロロン」と歌いながら歩いて行きます。ワンピースが水玉模様になったり、小鳥の模様になったりしていきます。

絵だけのページでは、子どもたちが満足するまで、ゆっくり絵を見せてあげてください。

『ちいさなうさこちゃん』



ディック・ブルーナ/ぶん・え
石井桃子/やく

福音館書店

1964年

17×17cm

☺ 3才～ ⌚ 4分

あるお家に、2ひきのうさぎが住んでいました。ふわふわさんとふわおくさんです。

ある晩のこと、ふわおくさんのところに天使がやってきて、もうすぐ赤ちゃんが生まれると言いました。そして生まれたのがうさこちゃんです。

そこらじゅうから動物たちがお祝いにやってきました。でも、あかんぼうさぎのうさこちゃんは、くたびれて眠ってしまいました。

ことばのリズムを大切に読みましよう。

『三びきのやぎのがらがらどん』 ノルウェーの昔話



マーシャ・ブラウン/絵
せたていじ/訳

福音館書店

1965年

26×21cm

☺ 3才～ ⌚ 6分

昔、三びきのやぎがいました。名前は、どれもがらがらどんといました。ある時、山で太ろうと、山へ登っていきました。登る途中には橋があって、その下には気味の悪い大きなトルルが住んでいます。始めにいちばん小さいやぎが、橋を渡りにいきますが、自分よりも大きい2番目やぎがやってくると言って、橋を渡りました。そして、2番目も3番目に来るからと橋を渡ります。やってきた3番目の大きいやぎのがらがらどんは、トルルと戦ってやっつけます。



『きょうりゅうきょうりゅう』★



バイロン・バートン/作・絵
中川千尋/訳

徳間書店
2000年*
22×25cm

☺ 4才～ ☹ 4分

*福武書店 1991年

大昔、恐竜がいました。角やとげの生えた恐竜、しっぽにこぶのついた恐竜、鋭い爪と牙を持った恐竜。大きいのもいれば、小さいのもいて、時に戦います。そして人間みたいにお腹がすいたり、眠くなったりします。

表と裏表紙に9種類の恐竜と、その名前が書かれていますが、見せるだけで読まなくてもよいでしょう。

各ページの文章は短いのですが、たっぷり絵を見せてから、子どもたちと楽しみながら読みましょう。

『ティッチ』



パット・ハッチンス/作・画
石井桃子/訳

福音館書店
1975年
26×21cm

☺ 4才～ ☹ 3分半

兄さんのピートと姉さんのメアリ、そしてちいさな末っ子のティッチ。

兄さんや姉さんは体も大きくて、自転車や凧を持っています。ティッチは小さいので、持っているものも三輪車やかざぐるまなど小さいものばかり。

ところがティッチが持っていた、とても小さな種を植えると、ぐんぐんのびて、とてもとても大きくなりました。

じっくりと絵を見せながら読んでみましょう。

『ぐりとぐら』



中川李枝子／文
大村百合子／絵

福音館書店

1967年

20×27cm

☺ 4才～ ⌚ 5分

のねずみのぐりとぐらは、森でとても大きなたまごを見つけました。

2ひきは、カステラを焼くことにしますが、たまごが大きすぎて家を持って帰ることができません。そこで家から道具を持ってきて、森でカステラを焼くことにしました。

途中に出てくる歌は、歌わなくてもかまいません。リズムカルに楽しんで読んでください。歌う場合は、自由に歌ってください。ただ、同じ子どもたちに読むときは同じ節で歌いましょう。

『おおかみと七ひきのこやぎ』 グリム童話



フェリクス・ホフマン／絵
せたていじ／訳

福音館書店

1967年

22×30cm

☺ 4才～ ⌚ 8分

おかあさんやぎの留守に、おおかみがやってきます。おおかみは、おかあさんやぎのふりをして家の中に入り、六ひきのこやぎを食べてしまいました。帰ってきたおかあさんやぎが七ひきめのこやぎと外に出ていくと、おなかの膨れたおおかみが寝ています。おかあさんやぎはおおかみのおなかを切って、こやぎたちを助けだすと、代わりに石を入れました。目を覚まして水を飲もうとしたおおかみは井戸に落ち、おぼれ死んでしまいます。

大きく横長の絵本です。しっかり持って読みましょう。



『ぐるんぱのようちえん』



西内ミナミ／作
堀内誠一／絵

福音館書店
1966年
20×27cm
Ⓢ 4才～ Ⓣ 6分半

ぐるんぱは、とっても大きなぞう。ずうっとひとりぼっちで暮らしてきたので、寂しくて、涙をこぼしていました。働きに出ることになりましたが、どこに行っても失敗ばかり。どこのお店からも追い出されてしまい、ぐるんぱは、また涙がでそうになりました。

ところが、子どもたちのお世話をすることになり、ピアノをひいて歌っていると、他にもたくさん子どもたちが集まってきました。ぐるんぱは幼稚園を開きました。もう寂しくありません。

ぐるんぱが歌うところがありますが、無理に歌う必要はありません。

『かいじゅうたちのいるところ』

かいじゅうたちのいるところ



モーリス・センダックさく じんぐうてるおやく

モーリス・センダック／作
神宮輝夫／訳

富山房
1975年
24×26cm
Ⓢ 4才～ Ⓣ 6分

ある晩、マックスは家で大暴れ。お母さんに叱られて、寝室に放り込まれてしまいます。そのうち、寝室に木が生えてきて、森や野原に変わり、船が迎えに来ました。その船に乗って行くと、かいじゅうたちのいるところに到着しました。マックスはかいじゅうたちの王さまになりますが、だんだん寂しくなって、優しいお母さんの所に帰りたくなります。

絵だけのページがありますが、子どもたちが満足するまで、ゆっくり絵を見せてあげてください。

『どろんこハリー』



E・ジョン／文
M・B・グレアム／絵
わたなべしげお／訳

福音館書店

1964年

31×22cm

☺ 4才～ ☹ 5分半

ハリーは、黒いぶちのある白い犬です。大嫌いなお風呂にお湯を入れる音が聞こえると、ブラシを裏庭に埋めて、外へ遊びに行きます。遊び回って汚れに汚れたハリーは、白いぶちのある黒い犬になってしまいました。あんまり汚れていたのだから、家に帰っても誰もハリーだと気付いてくれません。ブラシを掘り出してお風呂に入れてもらい、きれいになると、やっとハリーだとわかってもらえました。

ハリーが芸当をするところでは、指でひとつずつさしてあげても良いでしょう。

『ふしぎなナイフ』



中村牧江・林健造／作
福田隆義／絵

福音館書店

1997年

20×27cm

☺ 4才～ ☹ 2分

ふしぎなナイフは、ページをめくるとに、「まがる」「ねじれる」「おれる」「われる」「とける」「きれる」「ほどける」「ちぎれる」「ちらばる」「のびて」「ちぢんで」「ふくらんで」と変化していきます。

次のページになると、ナイフがどんな形に変化しているか、聞き手のこどもたちは楽しんで見えています。

子どもたちの表情を見て、じっくり絵を見せながら読みましょう。



『しょうぼうじどうしゃじぶた』



渡辺茂男／作
山本忠敬／絵

福音館書店
1966年
20×27cm
Ⓢ 4才～ Ⓣ 7分

ある町の消防署に、はしご車ののつぼくんと、高圧車のぱんぷくんと、救急車のいちもくさん、そして、古いジープを改良したちびっこ消防車のじぶたがいました。じぶたは、大きなビルの火事には呼ばれません。じぶたはいつも悲しく思っていました。ところがある日、山火事が起きました。のつぼくんと、ぱんぷくんと、いちもくさんも行けませんが、じぶたの出番です。じぶたの大活躍で山火事は消えました。ちびっこでもすごく性能のいいじぶたは、新聞にも載りました。

『すてきな三にんぐみ』



アンゲラー／作
今江祥智／訳

偕成社
1969年 (1977年改訂)
30×22cm
Ⓢ 4才～ Ⓣ 5分

だれもが怖がる、どろぼう三にんぐみ。
ある晩、馬車をおそったら、中にいたのはみなしごのティファニーちゃんだけ。どろぼうの隠れ家に連れて行かれたティファニーちゃんは、ためこまれた宝物の山にびっくり。
「これ、どうするの？」
どうするつもりもなかったどろぼうたちは相談して、国中のすてごやみなしごを集め、お城を買ってみんな暮らし始めます。
暗いページの字が読みにくいこともあるので、下読みを十分にしましょう。

『きよだいなきよだいな』



長谷川摂子／作
降矢なな／絵

福音館書店

1994年

20×27cm

☺ 4才～ ☹ 4分半

「あつたとさ あつたとさ ひろいのつばら だまんなか きよだいなピアノがあつたとさ」で、おはなしが始まります。子どもが100人やってきて、巨大なピアノの上でおにごっこ。広い野原の真ん中には、巨大なせつけん、巨大な電話、巨大なトイレトペーパーなどが現れます。

最後は、巨大な扇風機に腰掛けた子どもたち100人が、みんな飛んで、お父さん、お母さんの腕の中に落ちこみました。

『なにのこどもかな』



やぶうちまさゆき／作

福音館書店

1987年

19×19cm

☺ 4才～ ☹ 3分

中表紙には鹿の子どもの絵。ここからすでに始まっています。ここでは、「なにのこどもかな」と題名も読んであげましょう。ページをめくると、「シカのこども」という言葉と共に、親子の鹿の姿が描かれています。いろいろな動物や鳥の子どもと親の姿。大きくなると、すっかり姿が変わってしまう動物たちもいます。今にも動き出しそうな写実的な絵が子どもたちの目も楽しませてくれます。

表紙の裏と表とが問いと答えになっています。しっかり見せてあげましょう。



『スイミー』



レオ＝レオニ／作
谷川俊太郎／訳

好学社
1969年
28×23cm
☺ 5才～ ☹ 6分

スイミーは、小さな魚の兄弟たちと暮らしていました。兄弟は赤いけれど、スイミーは真っ黒です。ある日、恐ろしいまぐろに兄弟たちが飲みこまれて、ひとりぼっちになってしまいます。スイミーは、広い海を旅しながら、自分とそっくりの小さな魚たちを見つけます。

スイミーは、大きな魚に食べられないで泳ぐ方法を考えます。そして、みんなで大きな魚のように泳ぐことを思いつきます。

ストーリーを知っていても何度でも楽しめる絵本です。

『やさいのおなか』



きうちかつ／作・絵

福音館書店
1997年
19×19cm
☺ 5才～ ☹ 4分

「これなあに」
白黒で野菜の断面が描かれています。何の野菜かあてっこ遊びができます。次のページにカラーの断面図と答えの野菜が描かれています。

ねぎ、レンコン、ピーマン、たけのこ、さつまいもなど、11種類の野菜が出てきます。野菜を切ったふしぎな形は当てるのが楽しく、長いお話の間の息抜きや、おはなし会の導入にも使えます。

『なにをたべてきたの?』



岸田衿子／文
長野博一／絵

佼成出版社

1978年

25×22cm

🕒 5才～ 🕒 4分

お腹を空かせたしろぶたくんが、りんご、レモン、メロン、ぶどうを次々と食べていきます。その度に、食べたものの色がお腹に出てきて、他のぶたから、「まえよりきれいになったみたい」と言われます。しろぶたくんは、もっときれいになれると思って石けんを食べます。ところが、石けんがお腹の中でいたずらし、坂をころがったしろぶたくんの鼻の穴からしゃぼん玉になって出ていきます。

しろぶたくんは、ほかのぶたから聞かれます。「なにとなにをたべてきたの?」

『だいくとおにろく』

日本の昔話



松居直／再話
赤羽末吉／画

福音館書店

1967年

19×27cm

🕒 5才～ 🕒 6分

昔、あるところにとても流れが速い川があり、何度橋をかけても流れてしまいます。困った村人たちは、大工に橋をかけてもらうことにしました。大工のところに鬼があらわれて、大工の目玉と引換えに橋をかけると言い、橋をかけてしまいます。目玉を出し渡る大工に鬼は名前をあてれば許すと言います。子守唄から鬼の名前を知った大工は無事に言い当てて、鬼は消えていなくなります。

途中出てくる子守唄は、歌うのが難しければ、となえるように読んでも良いでしょう。



『かさじぞう』

日本の昔話



瀬田貞二／再話

赤羽末吉／画

福音館書店

1966年

27×19cm

☺ 5才～ ☹ 6分

ある年の大みそか、貧乏なじいさんが笠を売りにいきましたが、ひとつも売れません。帰り道、吹雪の中のお地蔵さまに会いました。じいさんは売り物の笠をかぶせ、足りない分は自分の笠をかぶせました。正月の朝、六人の編み笠をかぶったお地蔵さまが、重い俵をじいさんの家に置いて帰ります。俵の中には正月の餅やら魚やら黄金がどっさり詰まっっていて、それからじいさんの家は幸せになりました。

語句の注については、途中で読まずに、聞かれたら説明するくらいで良いでしょう。

『かちかちやま』

日本の昔話



おざわとしお／再話

赤羽末吉／画

福音館書店

1988年

22×25cm

☺ 5才～ ☹ 9分

じいさまが山の畑で豆まきをしていると、たぬきが邪魔をします。じいさまはたぬきを捕まえますが、たぬきは、ばあさまをだまし、殺して逃げてしまいます。じいさまの悲しむ姿を見たらうさぎが仇をとるために、知恵を働かせ、たぬきをこらしめます。

出版数の多いおはなしですが、この絵本では、省かれた場面もなく、再話がきちんとされています。悪いことをしたたぬきは、最後に土船と一緒に沈んでしまいます。

怖さを強調せずに淡々と読み終えるとい良いでしょう。

『やまなしもぎ』

日本の昔話



平野直／再話
太田大八／画

福音館書店
1977年
21×23cm
Ⓢ 5才～ Ⓣ 10分

病気のお母さんにやまなしを食べさせようと、やまなしもぎに出かけることになった三人の兄弟。ところが上の二人の兄は、出会ったおばあさんの忠告を聞かず、恐ろしいぬまのぬしに、げろりと吞まれてしまいます。

三番目のさぶろうは、途中で出会った不思議なおばあさんの言う事を聞き、ぬまのぬしを倒して、兄たちを助け出します。

持ち帰ったやまなしを食べたお母さんはすっかり元気になり、親子四人楽しく暮らすことができました。

『わゴムはどのくらいのびるかしら?』



マイク・サーラー／文
ジェリー・ジョイナー／絵
岸田衞子／訳

ほるぷ出版
1976年
19×24cm
Ⓢ 5才～ Ⓣ 3分

ある日、男の子はわゴムがどのくらいのびるのか、試してみることにしました。ベッドのはしにゴムをかけて、部屋を出て、家を出て、自転車に乗って、バスに乗って、汽車に乗って行きました。でも、まだまだわゴムはのびていきます。飛行機に乗って、船に乗って、ラクダに乗って。とうとうロケット発射場にやってきました。ロケットに乗って、それでもわゴムはのびていきます。そして、とうとう月にきてしまいました。さあ一歩足を踏み出そうとしたところ、ポーンとはねて、ベッドに着陸したのでした。



『くわずにようぼう』

日本の昔話



稲田和子／再話

赤羽末吉／画

福音館書店

1980年

27×20cm

☺ 5才～ ☹ 8分半

「よく働く、ものを食わない女房がほしい」よくばりの男のところに、美しい、よく働く、ものを食わない娘が嫁にきました。ところが、嫁はおにばばで、男がため込んでいた米を男がいない間、にぎりめしにして、頭のでっぺんの、大きな口になげこんでいました。男はおにばばにつかまって、食われそうになります。

おにばばは、菖蒲とよもぎを怖がっていました。逃げた男を追いかけますが、最後にはよもぎのしるがくつついて、からだごとけてしまいます。

五月の菖蒲の季節にぴったりの絵本です。

『しんせつなともだち』



方軼羣／作
君島久子／訳
村山知義／画

福音館書店

1987年

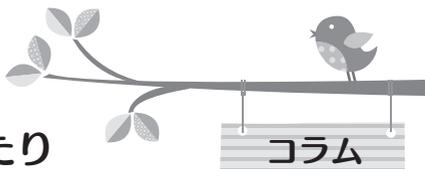
20×27cm

☺ 5才～ ☹ 4分

雪が降ったある日、子うさぎは食べものを探しに出かけて、かぶを二つ見つけました。一つは自分で食べて、一つは友だちのろばに届けました。ところが、ろばが留守でしたので、そっと置いて帰ってきました。

さて、ろばがさつまいもを見つけて帰ってくると、家においてあったかぶを見て、やぎにやろうと思いつきました。うさぎからろば、ろばからやぎ、やぎからしかへと渡っていったかぶは、またうさぎのところに戻ってきました。

途中で向きが変わる本～ タテになったりヨコになったり



物語の途中で絵本の場面が縦開きになる本があります。

下読み、練習をしっかりと行い、スムーズに絵本を縦と横に動かしましょう。

例えばこの本…

『うまかたやまんば』

(おざわとしお/再話 赤羽末吉/画 福音館書店 1988年)

縦開きのページが続くので、ぐらつかないようにしっかりと持ちましょう。

『めっきらもっきらどおんどん』

(長谷川摂子/作 降矢なな/画 福音館書店 1990年)

縦開きのページが所々あるので、スムーズに動かせるようしっかりと練習をしましょう。

小学生から

『キャベツくん』



長新太/文・絵

文研出版

1980年

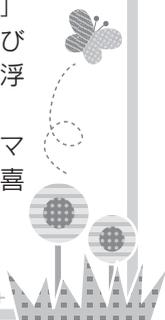
29×23cm

🕒 6才～ 🕒 5分

はらぺこのブタヤマさんはキャベツくんを食べようとします。「ほくを食べるとキャベツになるよ。」と言われ空を見ると、鼻がキャベツになったブタヤマさんが空に浮かんでいます。

ブタヤマさんが「ヘビが食べたら？」
「じゃあ、タヌキは？」と尋ねるたびに、キャベツになった動物たちが空に浮かびます。

キャベツになった動物や、ブタヤマさんの「ブキャ！」に子どもたちは大喜びです。





『よかったね、ネッドくん』



レミー・シャーリップ／作
八木田宜子／訳

偕成社

1969年（1997年改訂）

26×19cm

☺ 6才～ ☹ 4分

ある日ネッドくんに、びっくりパーティーの招待状が届きます。ところがパーティーは遠いところであるのです。でも、「よかった！」友だちが飛行機を貸してくれます。「でも、たいへん！」飛行機は途中で爆発してしまいます。それから、良いことと悪いことが交互に起こっていきます。

「よかった！」はカラーで描かれ、「でも、たいへん！」はモノクロで描かれているので、視覚的にも分かりやすい絵本です。

『おじさんのかさ』



佐野洋子／作・絵

講談社

1992年*

31×22cm

☺ 6才～ ☹ 6分半

*銀河社 1974年

おじさんはとても立派な傘を持っています。でも、傘を大事にするあまり、雨が降っても、傘をさしません。なぜなら、傘が濡れてしまうからです。

ところが、ある雨の日、公園で男の子に傘に入れてと言われます。おじさんはもちろん入れてあげません。男の子は女の子の傘に入れてもらって、歌いながら帰っていきます。「あめがふったらポンポロロン。あめがふったらピツチャンチャン。」

その楽しい音のリズムに、おじさんは、初めて、傘をさして雨の中を歩いてみることにしたのでした。

『タンゲくん』



片山健／作

福音館書店
1992年
29×21cm
☺ 6才～ ⌚ 7分

ある日晚ご飯を食べていると、見知らぬ猫が家に入ってきました。片方の目がつぶれているけれど、りっぱな猫です。お父さんは「タンゲくん」と名前をつけました。「わたし」はタンゲくんの昼間の行動が気になり、色々考えては心配になります。けれども、晩になるとちゃんと帰ってきて、「わたし」の作ったごはんをおいしそうに食べてくれるのです。

中表紙の絵からすでにおはなしが始まっているので、絵をゆっくり見せてから、読み始めると良いでしょう。

『ひやくにんのおとうさん』★ 中国の昔話



譚小勇・天野祐吉／文
譚小勇／絵

福音館書店
2005年
27×20cm
☺ 6才～ ⌚ 6分

山奥に住む若い夫婦が、入れたものが百倍になる不思議なかめを見つけました。このかめの噂はふもとの町にも広がり、かめはふもとの地主に取り上げられてしまいました。地主の家では、中を見ようとして灯りを落とし、その火を消そうと水を入れ、すべて百倍になりました。騒ぎを聞きつけた地主の父がかめを覗き込んだ拍子に、すべてかめの中に落ちてしまいました。かめからは次から次に、百人のお父さんが出てきたのでした。



『いたずらこねこ』



バーナディン・クック/ぶん
レミイ・シャーリップ/え
まさきりこ/やく

福音館書店

1964年

19×27cm

☺ 6才～ ☹ 10分半

隣同士に住んでいた、ほんの小さなカメと子猫が出会ったおはなしです。

カメを知らない好奇心旺盛な子猫は、カメをポン！と叩きました。すると、子猫は目が飛び出そうな顔になりました。なぜなら、カメの首がなくなったからです。もう一度ポン！と叩いたら、今度は足がなくなってしまいました。

カメが歩き出したとき、子猫は後ろ向きに歩いて行きました。ところがそこには池があったのです。子猫は池に落ちてしまいます。そして、子猫はもう後ろ向きには歩きませんでした。

『パンのかけらとちいさなあくま』 リトワニア民話



内田莉沙子/再話
堀内誠一/画

福音館書店

1992年

27×20cm

☺ 6才～ ☹ 10分半

小さな悪魔が、貧乏なきこりのパンをとりました。ところがほかの悪魔に言われて、きこりのために働くことになりました。そして地主の許しを得て、沼を麦畑にすることになりました。見事な麦畑になりましたが、収穫になると、地主が一本残らず刈り取って行ってしまいました。悪魔は地主に、きこりに一束でいいから分けて欲しいと頼みます。地主が許すと、悪魔は、長い長い縄であるだけの麦を一束にして、きこりのところへ戻っていったのでした。

『おおぐいひょうたん』★ 西アフリカの昔話



吉沢葉子／再話
斎藤隆夫／絵

福音館書店
2005年
20×27cm

☺ 8才～ ⌚ 6分

フライラは、ちいさなまあるいひょうたんを見つけました。このひょうたんは、肉を食う魔物だったのです。フライラは羊のところに逃げますが、ひょうたんは羊のむれをさぶさぶと飲み込んでしまいます。次は牛、それかららくだ。ひょうたんは全部飲み込んで追いかけてきます。とうとうフライラが食いつかれてしまった時、フライラがかわいがっていたやぎが助けてくれました。お母さんは、割れたひょうたんのかけらを集めると燃やしてしまいました。

『つるによぼう』 日本の昔話



矢川澄子／再話
赤羽末吉／画

福音館書店
1979年
26×25cm

☺ 8才～ ⌚ 10分

よ平という若者が、怪我をした一羽の鶴を助けます。その夜、美しい娘が女房にしてほしいとやってきます。女房がなかをのぞかない約束をしてはたを織ると、美しい織物が出来上がり、高い値で売れました。よ平は欲が出てまはたを織らせ、とうとうなかをのぞいてしまいます。するとなかでは鶴が自分の羽を抜いて、はたを織っていたのです。鶴は悲しそうに空へと飛びたっていきました。



『王さまと九人のきょうだい』 中国の民話



君島久子／訳
赤羽末吉／絵

岩波書店
1969年
26×20cm
Ⓢ 8才～ Ⓣ 13分半

子どものいない老夫婦が不思議な老人からもらった丸薬を飲むと、一度に九人の赤ん坊が生まれました。

子どもたちが成長したある日、宮殿の大きな柱が倒れてしまいます。そこで兄弟で一番の力持ちが宮殿に行き、柱を直してしまいます。すると、王さまは恐ろしくなって、殺してしまおうと企みますが、兄弟たちがそれぞれの能力を発揮するので、うまくいきません。

顔も姿もそっくりな九人は悪い王さまに勝つことができます。

『しまふくろうのみずうみ』



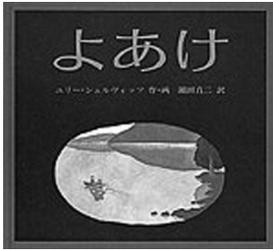
手島圭三郎／絵・文

リブリオ出版＊
2001年
31×22cm
Ⓢ 8才～ Ⓣ 7分
＊福武書店 1982年

しまふくろうの親子が魚をとるために夜の湖に姿をあらわします。お父さんがじっと待ち構えた末に大きな魚をとり、家族のところへ運んでゆく姿が丁寧に描かれています。しまふくろうの魚とりは一晩中続き、夜明けが来たところでおはなしは終わっています。

やや大きめの絵本ですが、それに負けないくらい北海道の自然やしまふくろうの様子が力強く描かれています。文章がないページもありますが、絵に力があるのでしっかりと間を取って絵を見せてあげてください。

『よあけ』



ユリー・シュルヴィッツ/作・画
瀬田貞二/訳

福音館書店
1977年
24×26cm
🕒 11才～ 🕒 2分半

日が落ち、月がのぼるころから夜が明けるひと時までの、湖のほとりです。木の下におじさんと孫が毛布で寝ています。音もなく、寒く湿っています。月がのぼると、木の葉はきらめき、山は黒々と静まります。動くものが何もないなかで、そよ風がそっと小波をたてます。蛙が飛び込む音が聞こえ、鳥が鳴きはじめると夜明けが近づいています。

おじさんと孫がボートで湖に漕ぎ出した時、山と湖が緑になります。

唐の詩人柳宗元の「漁翁」を題材にしている絵本です。

『あかりの花』★ 中国苗族民話

肖甘牛/採話
君島久子/再話
赤羽末吉/画

福音館書店
1985年
26×25cm
🕒 11才～ 🕒 8分

むかし、トーリンという若者が山で働いていると、汗が岩のくぼみに落ちて、そこに真っ白なユリの花が咲きました。ユリは歌を歌い、十五夜の夜、トーリンがあかりの下で竹かごを編んでいると、あかりの灯心が赤い花になり、美しい娘が現れたのです。二人は一緒に暮らします。やがて暮らしが豊かになると、トーリンは働かずに遊び歩くようになりました。娘が何を言ってもききません。娘は明りから現れた鳥と姿を消してしまいます。トーリンが心を入れ替えると、また娘は帰ってきました。





大きな本！ でも楽しんでほしい！

次に紹介する本は、大きな本で長いおはなしですが、ストーリーがしっかりしていて、絵も遠目がきき、読み聞かせに向けた絵本です。

最後までぐらつかないようにしっかり絵本を持ち、十分に練習をして、ぜひ読み聞かせをしてください。

『かもさんおとおり』

(ロバート・マックロスキー／文・絵 わたなべしげお／訳
福音館書店 1965年)

大きな画面いっぱい、さまざまな角度からボストンの街、かも一家の様子がセピア色一色で描かれています。

『スーホの白い馬』

(大塚勇三／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967年)

少年と白馬の悲しい物語で、横長の画面いっぱいに描かれた絵が、広大なモンゴル草原の雰囲気を与えています。



2

ストーリーテリングに向くおはなし

ストーリーテリングは、たくさんあるテキストの中から自分に合うおはなしを選ぶことが、語ることの第一歩となります。始めたばかりの人は、どのおはなしを選んだらいいのかという難題にぶつかるかもしれません。

ここで紹介しているテキスト（出典本）は実際におはなしを語る人たちが、初心者の方でも語り易いように、言葉を選んで構成・編集されたものです。

まずはこの冊子で紹介してあるおはなしを声に出して読んでみてください。声に出すと、自分に合う話かどうか良くわかります。そして、自分がおもしろいと思うおはなしをひとつ覚えて、子どもたちの前で繰り返し語ってみてください。

同じおはなしを繰り返し語っても子どもたちは、おはなしの世界を楽しんでくれます。

「おいしいおかゆ」

グリムの昔話

『おはなしの
ろうそく1』

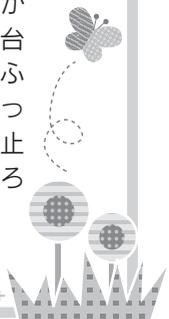
『エパミナダス
愛蔵版おはなしの
ろうそく1』

東京子ども図書館

『子どもに語る
グリムの昔話1』
こぐま社

☺ 4才～ ☺ 4分

貧しい女の子が森でおばあさんに出会い、おかゆを煮てくれる不思議な鍋をもらいました。ある日、女の子が留守の間に、おかあさんが鍋を使いました。おかゆを食べて満腹になりましたが鍋の止め方がわかりません。鍋はいつまでもおかゆを煮続け、鍋からあふれだします。台所も家も隣の家も、町中がおかゆであふれ、大騒ぎになりました。ようやく帰ってきた女の子が、たったひとりで鍋を止めると、町の人たちは自分の通るところを食べながら帰ってきました。





「世界でいちばんきれいな声」 マージョリー・ラ・フルール／作 山口雅子／訳

『おはなしの
ろうそく11』

『ヴァイノと白鳥ひめ
愛蔵版おはなしの
ろうそく6』

東京子ども図書館

☺ 4才～ ⌚ 4分

1羽の子ガモが、広い世界を見たいと思
い、家を出て行くと、子ネコに会いま
した。鳴き声を聞いた子ガモは、「なんてか
わいい声なんだろう」と思い、まねをし
ましたが、「ミャック！ミアーック」と言え
ただけでした。先へ進んでいくと、子イ
ヌ、ことり、牝ウシに会い、鳴き声をまね
しましたが、うまくできません。しかし、
お母さんがモの鳴き声を聞いた子ガモは、
とてもうれしくなり、「世界で一番きれいな
声だ！」とと思ってまねをしました。子ガ
モは今度はとても上手に「クワッ！ク
ワッ！」と鳴くことができました。

「鳥吞爺」 日本の昔話

『日本昔話百選』
三省堂

『子どもに語る
日本の昔話2』
こぐま社

『かもとりごんべえ
ゆかいな昔話50選』
岩波書店

☺ 4才～ ⌚ 7分

おじいさんが山へ仕事に行き休んでい
ると、かわいい鳥がきて面白いことを
言って鳴きます。近くで聞きたくて舌に
止まって鳴いてもらおうと、思わず呑み
込んでしまいます。すると、おじいさん
のへそからしつばの羽根が出てきて、
ひつぱると「あやちゅうちゅう」と鳴き
出しました。次の日、おじいさんが殿様
にこれを聞かせると、殿様は喜んで、褒
美をくれました。

いくつかテキストがあり、季節を大事
にするものもあります。自分に合ったお
話を選びましょう。

「ホットケーキ」

ノルウェーの昔話

『おはなしの
ろうそく18』

『ホットケーキ
愛蔵版おはなしの
ろうそく9』

東京子ども図書館

◎ 5才～ ① 9分半

あるところに、お母さんと7人の子もたちがいました。この子たちはいつもお腹をすかせていたので、お母さんがホットケーキを焼いてくれました。ところが、ホットケーキは食べられたいないので、ころころ転がって逃げてしまいます。そして、次々に現れる動物たちからも逃げていきますが、そのとき動物たちに面白い名前呼びかけます。がちょうは「ガッチョブッチョ」、アヒルは「アーヒルガービル」など。そして最後にブタに会い、ついには食べられてしまうのです。

「こすずめのぼうけん」

エインワース／作
石井桃子／訳

『おはなしの
ろうそく13』

『雨のち晴
愛蔵版おはなしの
ろうそく7』

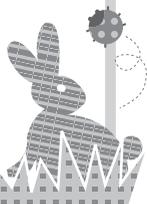
東京子ども図書館

『こすずめのぼうけん』
福音館書店（絵本）

◎ 5才～ ① 6分

こすずめが空を飛ぶ練習を始めます。でも、お母さんの言うことを聞かず、ずっと遠くまで飛んでいきます。ところが、だんだん飛ぶのがつらくなってしまいました。休ませてもらおうと、いろいろな鳥の巣をたずねてまわりますが、仲間ではないと追い返されてしまいます。

最後に出会った鳥は、お母さんすずめでした。こすずめは、お母さんの背中に乗って、家に帰ります。





『マーシャとくま』 ロシアの昔話

『マーシャとくま』
福音館書店（絵本）

マーシャはおじいさんとおばあさんと暮らしていました。ある日、村の女の子たちと森へ行き、迷子になってしまいました。マーシャは、ぐるぐると歩き回っているうちに、くまの住む小屋にたどり着きました。くまはマーシャを捕まえてしまい、家に帰してくれません。おじいさんとおばあさんの家に帰るために、マーシャは、いい方法を思いつきます。おまんじゅうを作り、つづらに入れる時、自分も一緒に入って、くまに届けてもらうのです。

☺ 5才～ ☺ 7分半

そして、マーシャは無事に家に帰りました。

『あなのはなし』 ミラン・マラリーク／作 間崎ルリ子／訳

『おはなしの
ろうそく4』

『なまくらトック
愛蔵版おはなしの
ろうそく2』

東京子ども図書館

あるところに赤い靴下がありました。靴下には穴があいていたのですが、だれもつくろってくれなかったので、どんどん大きくなって、靴下をすっかりのみこんでしまいました。

ぶらりと外へ出た穴は、ドーナツと、かえると、つばめと、ひつじと一緒に旅に出ます。

夜になって、みんなは森の中の小屋で休みました。そこへ、おおかみがあらわれて、次々にみんなをパクリ。でも大丈夫、穴が食べられると、おおかみのおなかに穴があいて、みんなは無事に逃げ出し、旅を続けます。

☺ 6才～ ☺ 5分

「ついでにペロリ」

デンマークの昔話

『おはなしの
ろうそく6』

『ついでにペロリ
愛蔵版おはなしの
ろうそく3』

東京子ども図書館

◎ 6才～ ① 8分

おばあさんは、出かけている間おかゆをみていておくれと猫に頼みました。ところが、猫はおかゆがあんまりおいしそうなので、ペロリと食べてしまいました。それからついでにおなべのみこんでしまいました。その上、帰ってきたおばあさんもペロリとのみ込んでしまいます。それから散歩にでかけた猫は、つむじまがりやへそまがり、5羽の鳥など出会う人たちをみんなのみ込んでいきます。

猫がのみこんでいく順番と、おなかから出てくる順番を間違えないようにしましょう。

「アナンシと五」

ジャマイカ島の昔話

『子どもに聞かせる
世界の民話』
実業之日本社

『こども世界の民話 下』
実業之日本社

◎ 6才～ ① 7分

大昔、ジャマイカ島にアナンシという悪い奴がいました。「五」という魔女は自分の名前が嫌いで、「五」と口にした者は死んでしまう呪いをかけました。アナンシは、サツマイモの山を五つ作って、アヒルやウサギに数えさせ、わざとるようにしむけて食べてしまいます。ところがハトの奥さんには、うまくいきません。アナンシは、とうとう自分から「五」と言って、自分が死んでしまいました。「五」がポイントになるので、わかりにくい場合は、数字の5である事を説明してから始めると良いでしょう。



「ならなしとり」

日本の昔話

『おはなしの
ろうそく6』

『ついでにペロリ
愛蔵版おはなしの
ろうそく3』

東京子ども図書館

『子どもに語る
日本の昔話3』
こぐま社

☺ 6才～ ☺ 6分

病気のお母さんのために三人の兄弟がならなしをとりに出かけました。岩の上のばあさまの言うことを聞かなかった太郎と次郎は沼の主に吞まれてしまいましたが、三郎はばあさまの言うとおりにして、ならなしを取ることができました。それから沼の主を退治して、腹から兄さんたちを助け出し、お母さんにならなしを食べさせました。お母さんの病気も治り、みんな楽しく暮らしました。

ならなしの歌は歌わずに、唱えるだけでも良いでしょう。

「エパミナダス」

ブライアント／作
松岡享子／訳

『おはなしの
ろうそく1』

『エパミナダス
愛蔵版おはなしの
ろうそく1』

東京子ども図書館

☺ 7才～ ☺ 7分半

エパミナダスは、毎日のようにおばさんの家へ行きました。おばさんは「お母さんにおみやげだよ」と言って何かくれました。ケーキをもらったエパミナダスは、指でぎゅうっと握りしめて家に帰ります。お母さんはケーキの持ち方を教えてくれるのですが、次にもらったのはバターでした。言われた通りにしたのに、なぜかおかしなことになってしまいます。

最後のパイの場面は少しだけゆっくり語ってあげると、より子どもたちも場面の想像ができて、最後までおはなしを楽しむことができます。

「三枚のお札」

日本の昔話

『おはなしの
ろうそく5』

『ついでにペロリ
愛蔵版おはなしの
ろうそく3』

東京子ども図書館

『子どもに語る
日本の昔話2』

稲田和子・筒井悦子／著
こぐま社

☺ 7才～ ☺ 10分

山寺の小僧が栗拾いに行きたいというので、和尚さんは三枚のお札を小僧に持たせます。

栗拾いに夢中になって山深く入ってしまった小僧は、おばあさんに会い、ついに行ってしまいます。ところがこのおばあさんは鬼婆だったのです。

小僧はお札を使って鬼婆から逃れ、寺までたどり着きますが、鬼婆は和尚さんに詰め寄ります。和尚さんは鬼婆に化けくらべを持ちかけ、豆粒みたいに小さく化けた鬼婆を餅にはさんで食べてしまいます。

秋、栗が実る頃のおはなしです。

「かしこいモリー」

イギリスの昔話

『おはなしの
ろうそく1』

『エパミンダス
愛蔵版おはなしの
ろうそく1』

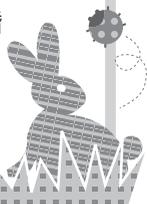
東京子ども図書館

『子どもに語る
イギリスの昔話』

こぐま社

☺ 8才～ ☺ 12分

森に捨てられた三人姉妹は、人食いの大男の家で一晩過ごしました。大男に殺されるどころを、一番年下のモリーの機転で逃げ出します。王様の御殿に着くと、王様はモリーが大男の宝物を盗んできたなら、王様の息子たちと姉たちを結婚させると言います。モリーは大男の宝物をうまく盗み出しますが、三度目につかまってしまう。それでも大男を出し抜いて逃げ出し、ついに末の王子と結婚することができました。



3

わらべうたの本

赤ちゃん向けのおはなし会や
おはなし会の導入、息抜きで使えます。

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』

小林衛己子／編
大島妙子／絵

のら書店
1998年
19×14cm
39p

あかちゃんと一緒に、また、あかちゃんにしてあげたいあそびが載っています。顔遊びや手遊び、体遊びがありますが、どれも簡単で楽しいものです。

遊び方のわかりやすい説明が、文と絵で書かれています。

楽譜は載っていません。子どもに合わせて、リズムカルに唱えたりして、遊びましょう。

『赤ちゃんから遊べるわらべうたあそび 55』

久津摩英子／編著

チャイルド本社
2007年
24×21cm
111p

赤ちゃんから4・5歳までを対象とした手あそび、わらべうたが、それぞれの年齢順におさめられています。保育園、幼稚園の先生、子育て中のお父さんお母さん向きに書かれています。

0から3歳までは、1歳ごとに、4から5歳は2歳分、それぞれの年齢向けに掲載されています。

遊び方の図解は、一般的なもののほかに、バリエーションも載っています。

リズムの取り方や、メロディがあるものに関しては、簡単な楽譜が載っています。

『いっしょにあそぼうわらべうた』(全3巻)

0・1・2歳児クラス編
1998年 141p

3・4歳児クラス編
1997年 111p

5歳児クラス編
1997年 115p

コダーイ芸術教育研究所／著
明治図書
15×21cm

子どもの成長に合わせて、0から2歳、3から4歳、5歳向けと3冊に分かれています。

年齢に合わせて、注意すべきこと、ふしまわしや楽譜、動き方やあそび方が詳しく書いてあります。どれも丁寧に書かれていて、すぐに実践することができます。

収録されているわらべうたも多く、また、その年齢の子どもについての解説も詳しく書かれています。

困った時、迷った時に支えとなるシリーズです。

4

おはなし会をするために

●まずはここから

『読み聞かせわくわくハンドブック』



代田知子／著

一声社
2001年
21×17cm
122p

絵本の読み聞かせの魅力や意義から、読み方、読み聞かせの会（おはなし会）を成功させるための工夫やコツにいたるまで、一つ一つの疑問に答えるように丁寧に書かれています。

家庭での読み聞かせについて、絵本の読み聞かせ以外のストーリーテリングや紙芝居などについても、わかりやすく書いてあります。

巻末にはジャンル別ブックリストがあり、「赤ちゃんや幼児が喜ぶ絵本」「ゆかいで笑いたくなる絵本」「導入、気分転換、息抜きにぴったりな絵本」など、場面に応じた本の紹介があります。

『えほんのせかい こどものせかい』



松岡享子／著

日本エディタースクール出版部
1987年
19×14cm
211p

子どもを本の世界に招き入れるため、大人がどうすればよいか、ということをやさしく教えてくれる一冊です。子どもにとって本とは、ただ楽しむためのものであり、その楽しむ経験こそが大切であること、そして本を手渡す大人は、子どもが本を楽しむためのお手伝いをする存在であることが書かれています。

読み聞かせの仕方や、読み聞かせにすすみたい絵本のリストも載っています。

何度読んでも、新しい発見がある本です。



●ストーリーテリングについて



『レクチャーボックス お話入門』



松岡享子／著

東京子ども図書館

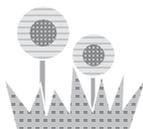
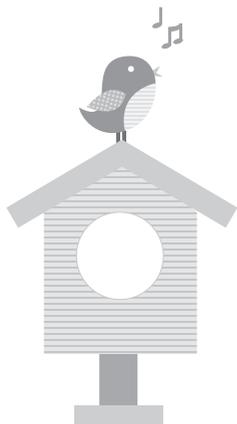
1.2009年 4.2008年

5.2008年 6.2011年

19×13cm

はじめてお話を語る人にも、長年語っている人にも、語る上での基本が書かれています。全6巻で、1「お話とは」、2「選ぶこと」、3「おぼえること」、4「よい語り（話すことⅠ）」、5「お話の実際（話すことⅡ）」、6「語る人の質問にこたえて」という内容で出版されます。（平成23年11月現在1、4、5、6の4冊が出版されています。）

「たのしいお話」シリーズの改訂版として出版されています。また、日本エディタースクール出版部から『お話を子どもに』『お話を語る』の2冊にまとめたものが出版されています。



●ステップアップ!

『絵本とは何か』



松居直／著

日本エディタースクール出版部
1973年
19×13cm
386p

絵本を通して、子どもの本の選び方や、子どもにとっての絵本とは何かということを知ることができます。

第1章では、子どもの成長と絵本とのつながりを、第2章では、子どもの側から見た絵本の選択について、第3章では、わらべうた・詩などを通して、日本語に対する音や響き、リズムなどことばの感覚が培われること、第4章では、著者が長年の絵本編集に関わったエピソード、また、附論では、日本の絵本の歴史も記されています。

一気に通して読むのも良いですし、章ごとに読むのも良いでしょう。

『クシュラの奇跡 140冊の絵本との日々』

(ドロシー・バトラー／著 百々佑利子／訳)

のら書店 2006年普及版 (のら社 1984年)

ニュージーランドに生まれた女の子クシュラは、複雑な重い障がいを持っていました。片時も目を離せない、生きることだけでもたいへんな状態のクシュラでしたが、4か月になり、はじめて本を見せると、本を見ようとする意志が見えたのです。9か月で、絵本を見せる習慣が定着しました。それから3歳9か月までの間、たくさんの絵本を読み聞かせました。そしてたくさんの絵本が、クシュラのその後の成長を支えていきます。

付録として、クシュラが読んだ本のリストなどもあります。

2006年の普及版には、その後のクシュラと著者についての記述もあります。障がいのある子どものことだけでなく、絵本というものの力を考えさせられる一冊です。

コラム

タイトル

あ	赤ちゃんから遊べるわらべうたあそび 55 -----	42
	あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん -----	42
	あかりの花 -----	33
	あなのはなし -----	38
	アナンシと五 -----	39
	雨のち晴 愛蔵版おはなしのろうそく 7 -----	37
い	いたずらこねこ -----	30
	いっしょにあそぼうわらべうた -----	42
	いない いない ばあ -----	5
う	ヴァイノと白鳥ひめ 愛蔵版おはなしのろうそく 6 -----	36
	うまかたやまんば -----	27
え	エパミナダス -----	40
	エパミナダス 愛蔵版おはなしのろうそく 1 -----	35 40 41
	絵本とは何か -----	45
	えほんのせかい こどものせかい -----	43
お	おいしいおかゆ -----	35
	王さまと九にんのきょうだい -----	32
	おおかみと七ひきのこやぎ -----	17
	おおきなかぶ -----	12
	おおぐいひょうたん -----	31
	おじさんのかさ -----	28
	おつきさまこんばんは -----	8
	おはなしのろうそく 1 -----	35 40 41
	おはなしのろうそく 4 -----	38
	おはなしのろうそく 5 -----	41
	おはなしのろうそく 6 -----	39 40

タイトル

	おはなしのろうそく 11 -----	36
	おはなしのろうそく 13 -----	37
	おはなしのろうそく 18 -----	37
か	かいじゅうたちのいるところ -----	18
	かさじぞう -----	24
	かしこいモリー -----	41
	がたん ごとん がたん ごとん -----	5
	かちかちやま -----	24
	かばくん -----	14
	かもさんおとおり -----	34
	かもとりごんべえ ゆかいな昔話50選 -----	36
き	キャベツくん -----	27
	きゅつきゅつきゅつ -----	9
	きょうりゅうきょうりゅう -----	16
	きよだいなきよだいな -----	21
く	クシュラの奇跡 -----	45
	くだもの -----	8
	ぐりとぐら -----	17
	ぐるんぱのようちえん -----	18
	くわずによぼう -----	26
こ	こすずめのぼうけん -----	37
	こども世界の民話 下 -----	39
	子どもに語るイギリスの昔話 -----	41
	子どもに語るグリムの昔話 1 -----	35
	子どもに語る日本の昔話 2 -----	36
	子どもに語る日本の昔話 3 -----	40

タイトル

	子どもに聞かせる世界の民話	39	
さ	三びきのやぎのがらがらどん	15	
	三枚のお札	41	
し	しまふくろうのみずうみ	32	
	しょうぼうじどうしゃじぶた	20	
	しんせつなともだち	26	
す	スイミー	22	
	スーホの白い馬	34	
	すてきな三にんぐみ	20	
せ	世界でいちばんきれいな声	36	
そ	ぞうくんのさんぽ	12	
た	だいくとおにろく	23	
	たまごのあかちゃん	10	
	タンゲくん	29	
ち	ちいさなうさこちゃん	15	
	ちびゴリラのちびちび	13	
	ちびすけどっこい	7	
つ	ついでにペロリ	39	
	ついでにペロリ 愛蔵版おはなしのろうそく 3	39	40 41
	つるにようぼう	31	
て	ティッチ	16	
	でてこい でてこい	6	
	てぶくろ	13	
と	ととけっこう よがあげた	11	
	鳥吞爺	36	
	どろんこハリー	19	
な	なにのこどもかな	21	

タイトル

	なにをたべてきたの? -----	23	
	なまくらトック 愛蔵版おはなしのろうそく 2 -----	38	
	ならなしとり -----	40	
に	日本昔話百選 -----	36	
の	のせてのせて -----	10	
は	パンツのはきかた -----	11	
	パンのかけらとちいさなあくま -----	30	
ひ	ひやくにんのおとうさん -----	29	
ふ	ふしぎなナイフ -----	19	
ほ	ホットケーキ -----	37	
	ホットケーキ 愛蔵版おはなしのろうそく 9 -----	37	
ま	マーシャとくま -----	38	
	まて まて まて -----	6	
め	めつきらもつきらどおんどん -----	27	
も	もうおきるかな? -----	7	
	もこ もこもこ -----	9	
や	やさいのおなか -----	22	
	やまなしもぎ -----	25	
よ	よあけ -----	33	
	よかったね、ネッドくん -----	28	
	読み聞かせわくわくハンドブック -----	43	
ら	れ	レクチャーボックス お話入門 -----	44
わ	わゴムはどのくらいのびるかしら? -----	25	
	わたしのワンピース -----	14	

編集委員

氏名	所属	参加年度
赤野 正子	福岡市中央図書館	22～23
稲員 初恵	田川市立図書館	21
江口 和美	筑後市中央公民館図書室	22
岡 亜裕子	福津市立図書館	21～23
岡本 郁子	朝倉市あさくら図書館	21～23
織戸由美子	宗像市教育委員会	21～23
川原由美子	志免町立町民図書館	21
草野三保子	古賀子ども本の交流会	22～23
小金丸敬子	飯塚市立ちくほ図書館	23
坂元 千恵	筑紫野市民図書館	23
田村 妙子	北九州市立八幡南こどもと母のとしよかん	21
永見真知子	大野城まどかびあ図書館	21
西川 知華	福岡市博多南図書館	23
野口三穂子	大木町図書・情報センター	22～23
橋本 美加	大野城まどかびあ図書館	22～23
藤崎 充子	志免町立町民図書館	21
藤原 千晶	嘉麻市立図書館（碓井・山田）	21～23
藤原 ちえ	筑紫野市民図書館	22
増田三貴子	北九州市立勝山こどもと母のとしよかん	21
村岡 純子	筑紫野市民図書館	21
矢野 好美	春日市民図書館	23

※所属については、参加年度のもの

県立図書館子ども図書館担当者

氏 名	参加年度
奥野 陽子	21～23
川崎美和子	21～22
森部 恵子	22～23
有吉 美穂	21
原 聡子	22
柳田 朋絵	21～23
坂梨 秀子	21～23



『おはなし会へのとびら』

～初心者のためのブックリスト～

平成23年度「子どもと読書」研修会報告書

編集：平成21・22・23年度「子どもと読書」研修会 研究講座

印刷：三栄印刷株式会社

発行：福岡県立図書館 平成24年3月

